

掲示板のことば

鏡
の
こ
と
し

喩
う
る
に

こ
れ
を

経
教
は

2020. 11

この言葉は、中国は唐の時代、善導という方の『観經四帖疏』という『仏説観無量壽經』を注釈した書物に出てくる言葉です。

さて、みなさんは今朝、鏡を見ましたか？ おそらくほとんどの方は見てきているのではないのでしょうか。歯を磨くとき、髭を剃るとき、髪を整えるとき、服を着るとき、お化粧をするとき……。そこには、まぎれもない、今の自分の姿が映し出されていると思います。でもそれは、表の姿ですよ。ここを映すことはできません。何を考え、何に迷い、何に悩んでいるのかは見せてくれません。

お経、つまり仏の教えは、私たちの内面の姿、ここを映し出すと言われているのです。映し出すと言っても、目に見える形ではありません。自分だけに、そっと知らせてくれるようなのです。どういうことでしょうか？

お経は、お釈迦さまが説かれた教えが文字として遺されたものです。そこには、「真実（まこと）」が語られています。「ほんとう」ということが説かれています。その真実（まこと）の教えに触れるとき、その真実（まこと）を鏡として、真実（まこと）ではない私たちの姿が明らかになってくると教えられるのです。

今このいのちをどう生きているのか、人を傷つけ、自らも傷つけているような生き方をしているのではないか、何に迷い、何に苦しんでいるのか、そのことが、仏の教えを鏡として知らされるのです。

仏の教えに照らされてはじめて、本当の自分の姿に気付くのだと教えられます。

真宗大谷派 光明寺住職 小林尚樹